

コロナ禍を母親の視点から考える

ふじママサロン

本多 さくら

はじめまして

「本多 さくら」です

- ◆ 市民活動団体「ふじママサロン」で活動中
- ◆ 静岡県富士市在住 北海道出身
- ◆ メーカー研究員で2児の母
- ◆ おやこそだちの会 代表
「親子で学ぶ」「働くママ」がキーワード
- ◆ 好きなこと
自然と子どもと遊ぶ・旅行・おいしいもの



ふじママサロンの活動について

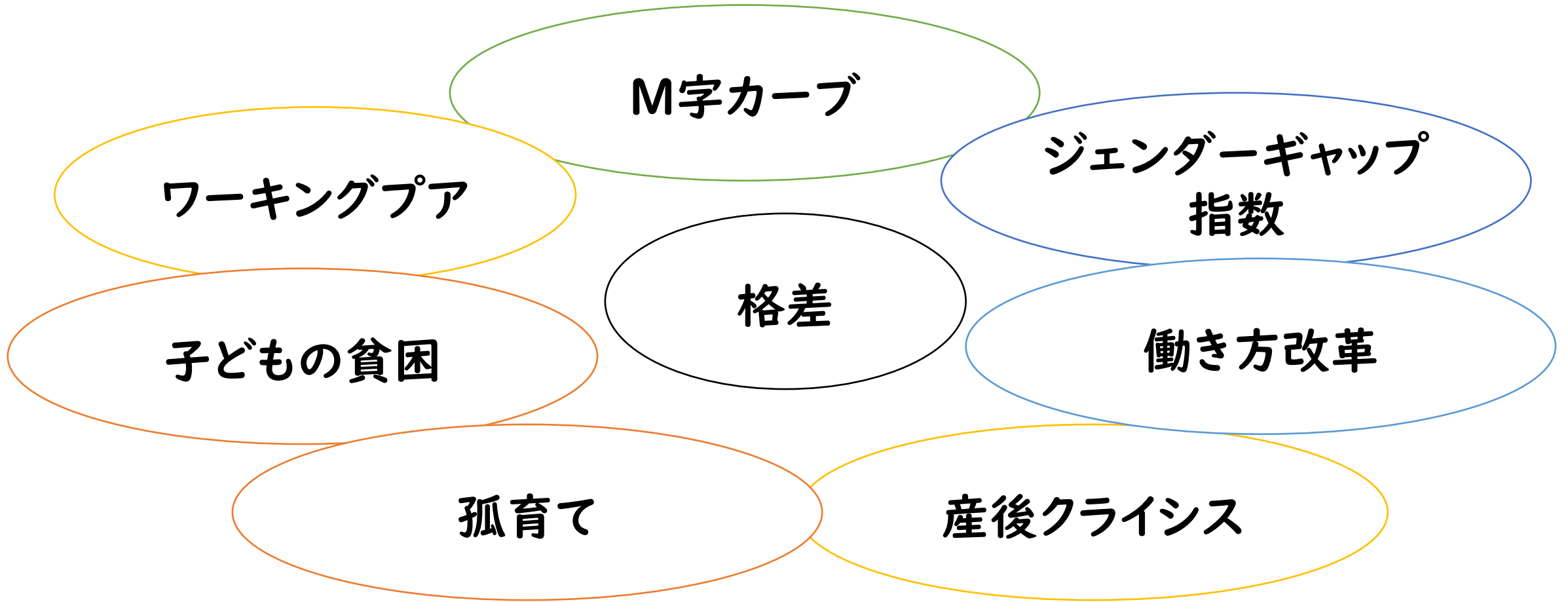
ふじママサロンは、
子育てに関わる方の「おしゃべりサロン」です。
対話から見えた課題を元に
地域の子育て環境をより良いものにするための
「仕掛け」を行っています。



メンバーは、富士市の子育て関連活動の代表と主催者。
1つの団体ではできない縦断的な企画や
社会的なテーマにアプローチしています。

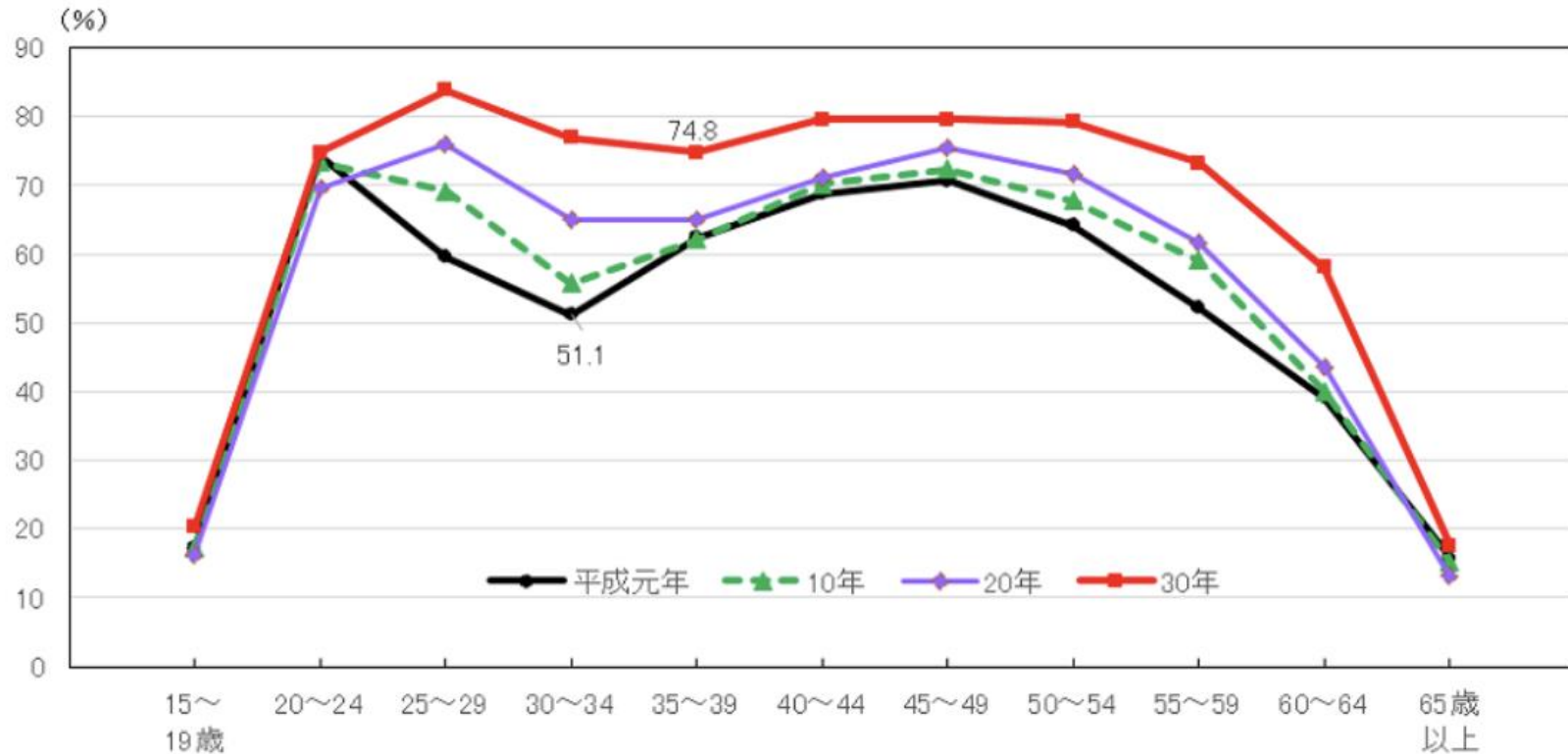


子育て世代を取り巻く社会課題



M字カーブとは

女性の年齢階級別労働力率の推移（平成元年～30年）

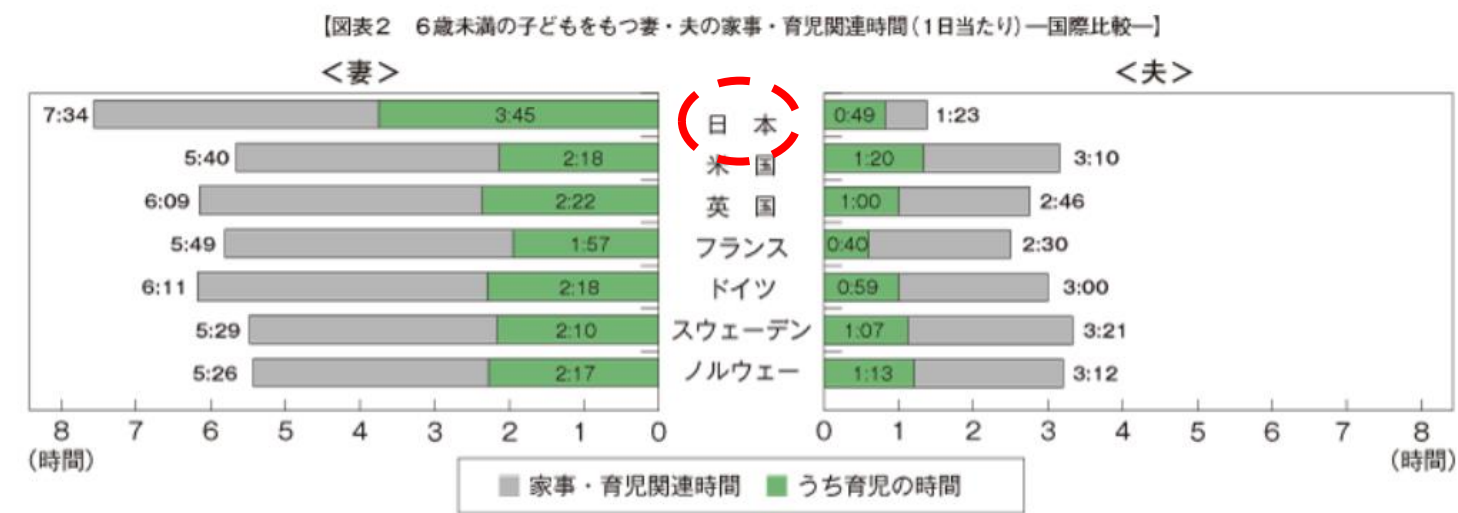


出所 総務省「労働力調査（基本集計）」

M字カーブは解消傾向⇒働く母親の増加

夫婦の家事育児時間

6歳未満の子どもをもつ夫婦の育児・家事関連時間（1日あたり）－国際比較－



（備考）

1. Eurostat "How Europeans Spend Their Time Everyday Life of Women and Men" (2004), Bureau of Labor Statistics of the U.S. "American Time Use Survey" (2016) 及び総務省「社会生活基本調査」(2016年)より作成。

2. 日本の数値は、「夫婦と子供の世帯」に限定した妻・夫の1日当たりの「家事」、「介護・看護」、「育児」及び「買い物」の合計時間(週全体)である。

出所 共同参画 平成30年5月号

ワンオペ
育児

育メン

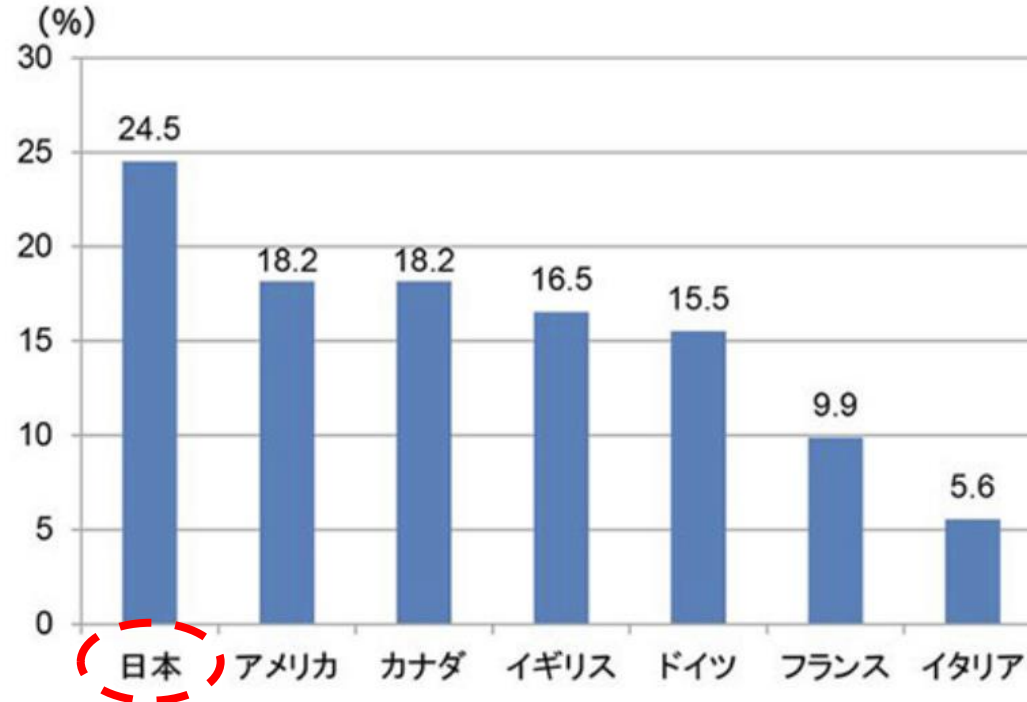
ダブルケア

働き方
改革

日本人男性の家事・育児関連時間は非常に短い

賃金格差

主要先進国におけるフルタイム労働者の男女間賃金格差（2017年）



(注1) ここでの男女賃金格差とは、男女の所得の中央値の差を男性の所得の中央値で除した数値のことである。

(注2) フランスは2014年、ドイツ、イタリアは2016年の数値。

(出所) OECD "OECD Database" より大和総研作成

参考)

ジェンダーギャップ指数

世界経済フォーラムが発表する政治・経済・教育・健康の4つの分野における各国の男女格差をはかる指標

2020年

日本: 121位 / 153か国

※特に政治・経済分野の順位が低い

女性活躍
推進法

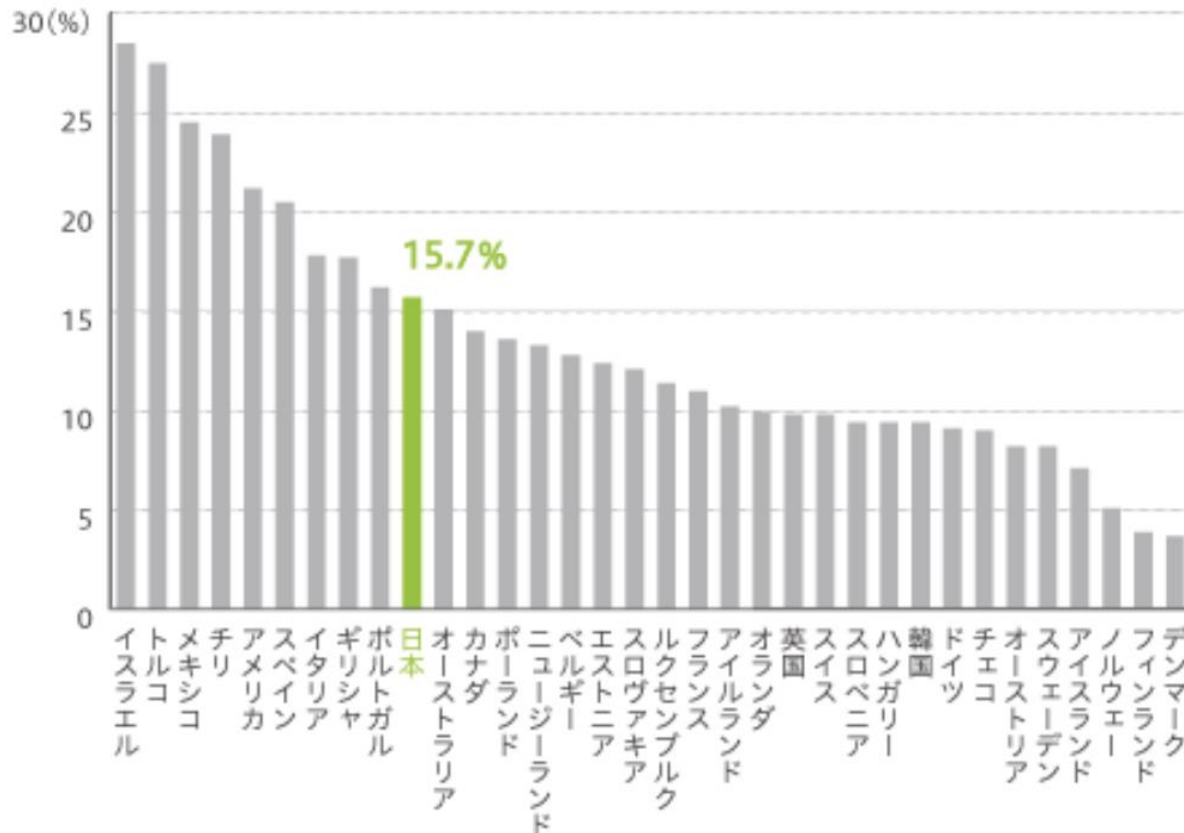
同一賃金
同一労働

PRESIDENT Online なぜ日本では「男女の賃金格差」がまだあるのか（2019）より

日本は男女間の賃金格差が大きい

格差（子どもの貧困⇒学力格差）

子どもの貧困率（17歳以下の子ども）の国際比較（2010年）



相対的貧困

その国の文化水準、生活水準と比較して困窮した状態
所得の中央値の半分に満たない状態

参考) 2018年 13.5%

出所 OECD(2014)Family database “Child poverty” 公益財団法人 チャンス・フォー・チルドレンHPより

7人に1人の子どもが貧困状態にある

子育て世代を取り巻く社会課題

- ◆ 働き続ける女性は増加も、男女間の家事・育児時間、賃金には大きな差がある。
⇒ 男女間の格差
- ◆ 子どもの貧困・学力格差・教育格差
⇒ 子どもの格差
- ◆ 孤育て・産後クライシス・ワンオペ
⇒ 子育てを1人で抱え込んでしまう環境

富士市内の休校中のアンケート

内容:

休校中の現在、不安なことや困っていること

休校延長や再休校の際にあると良いサポート

学校再開に際し、不安を感じていること

学校再開に際し、配慮があるとありがたいこと

期間:2020年5月10日～17日

対象:小学生の保護者

中学生本人または保護者

回答者数:425名

小学生 保護者 345名

中学生の保護者及び学生本人 80名



ふじママサロンの動き

5/6

沼津市PTAによるオンライン学習実施要望の記事を見て「富士でも何かできないかな？」

5/7～8

アンケート内容をつめる

5/9

アンケート作成とチェック

5/10～17

アンケート実施

5/18～20

アンケート集計と市へのアプローチ

5/21

教育委員会との面談

5/29

市議会議長・副議長との面談

なぜアンケートをしたの？

長い休校と自粛生活。

学校に行けない子ども達。

お友達と会えず、図書館や公園にも自由に行けない生活。

不安と困ったの声

「感染が怖い」

「学校再開は、いつ？」

「勉強を教えられない」

「オンライン教育は、やらないのかな？」

「子どもの心と体」

「もう疲れちゃった・・・。」

一方で、前向きな声や取り組みも

「感染予防について訴えたい！」

「授業配信をかけあってみようか」

「オンラインでやってみよう！」

「現役学生達の実践（授業配信・子ども食堂）」

「こんな情報があるよ」

「みんなでがんばろう！」

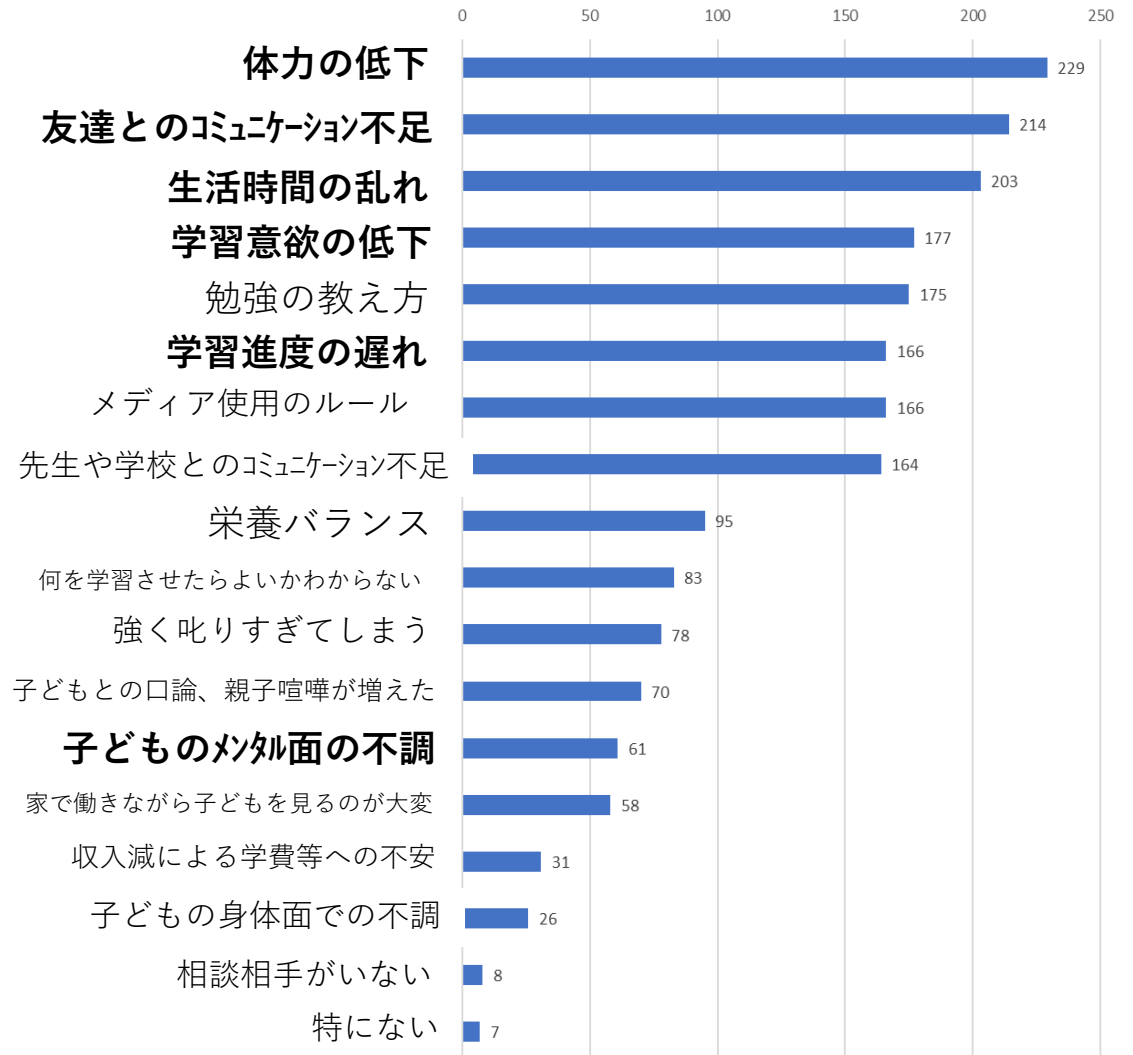
不平不満を吸い上げるだけでなく、
今後につながる前向きな意見を抽出することが目的

アンケートから見たこと①

休校中の不安

- ①「体力の低下」「生活時間の乱れ」は、
小学生が約60%以上
 - ②「学習意欲の低下」や「学習進度の遅れ」を
不安視する人も多い
 - ③小学生は「お友達とのコミュニケーション不足」
が60%以上
- 18%が「子どものメンタル面の不調」と回答。

休校中の現在、不安なことや困っていること

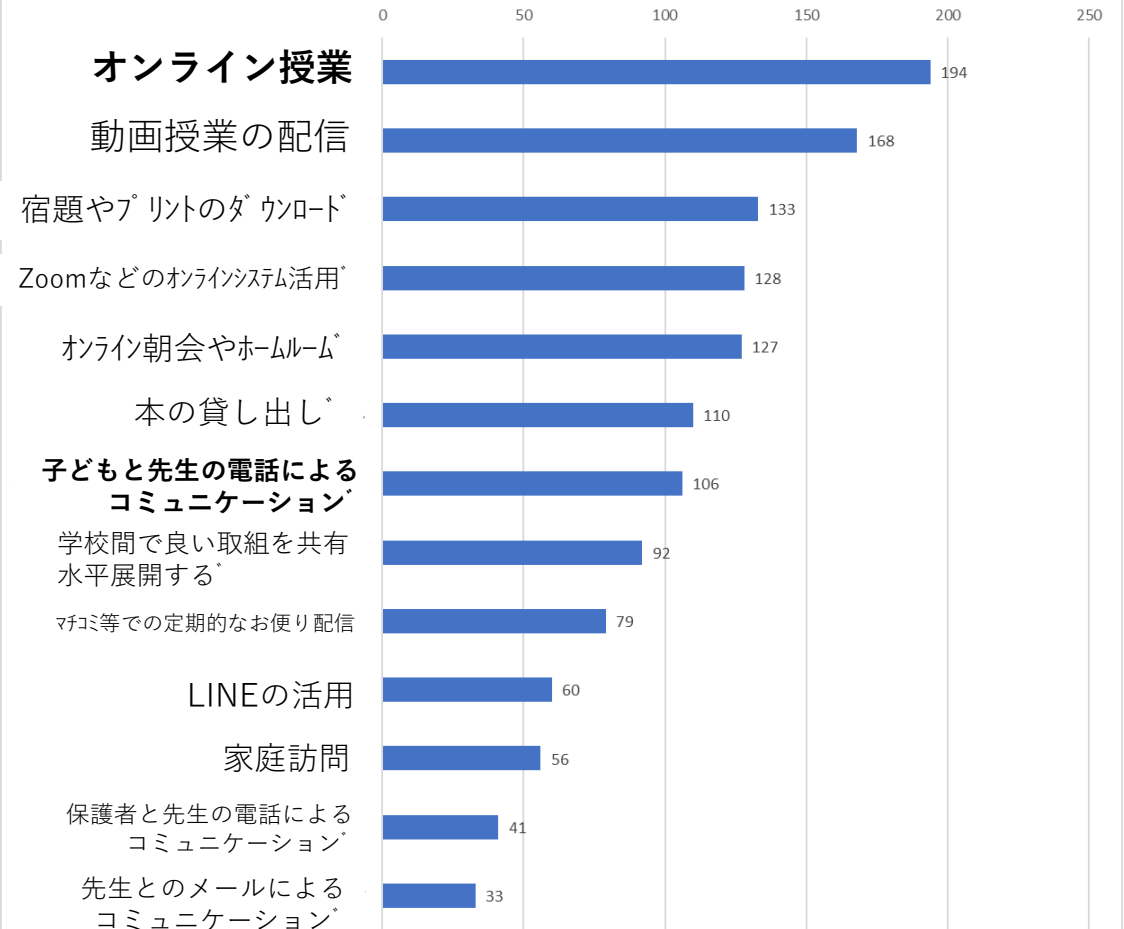


アンケートから見たこと②

休校延長や再び休校になった場合、 あると良いサポート

- ①「オンライン授業」の希望者は、小学校57%、
中学校70%
- ②オンラインになった場合、兄弟がいるなど
ハード面の不足を懸念する声も
- ③小学生は「先生と子どもの電話での
コミュニケーション」を3割が希望

休校延長や再び休校になった場合、どんな
サポートがあると良いと思いますか？

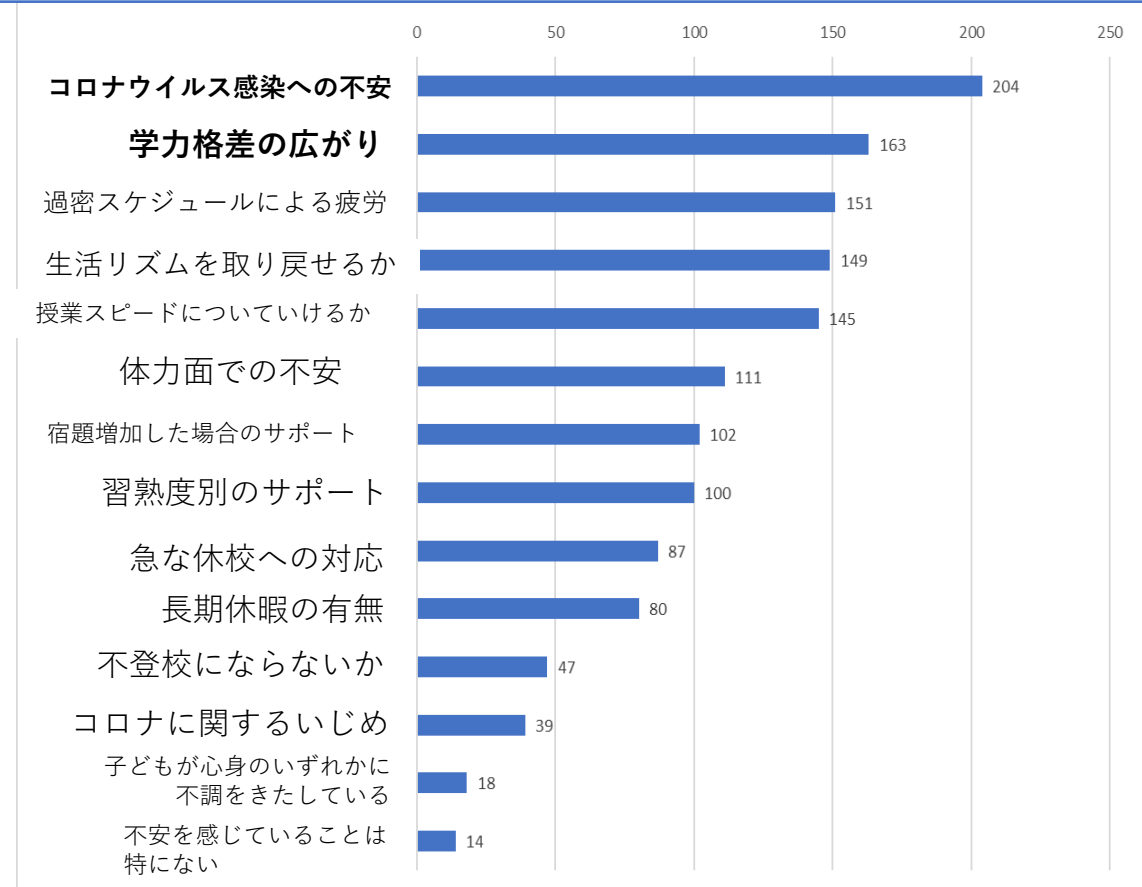


アンケートから見たこと③

学校再開への不安

- ①「新型コロナウイルス感染」は、小・中ともに約6割以上
- ②中学生は「学力格差の広がり」への不安がトップ
- ③「過密スケジュールによる疲労」
「授業スピードについていけるか」「生活リズムを取り戻せるか」
を選択した人は、小・中ともに4割以上

学校再開に際し、不安を感じていることは何ですか？

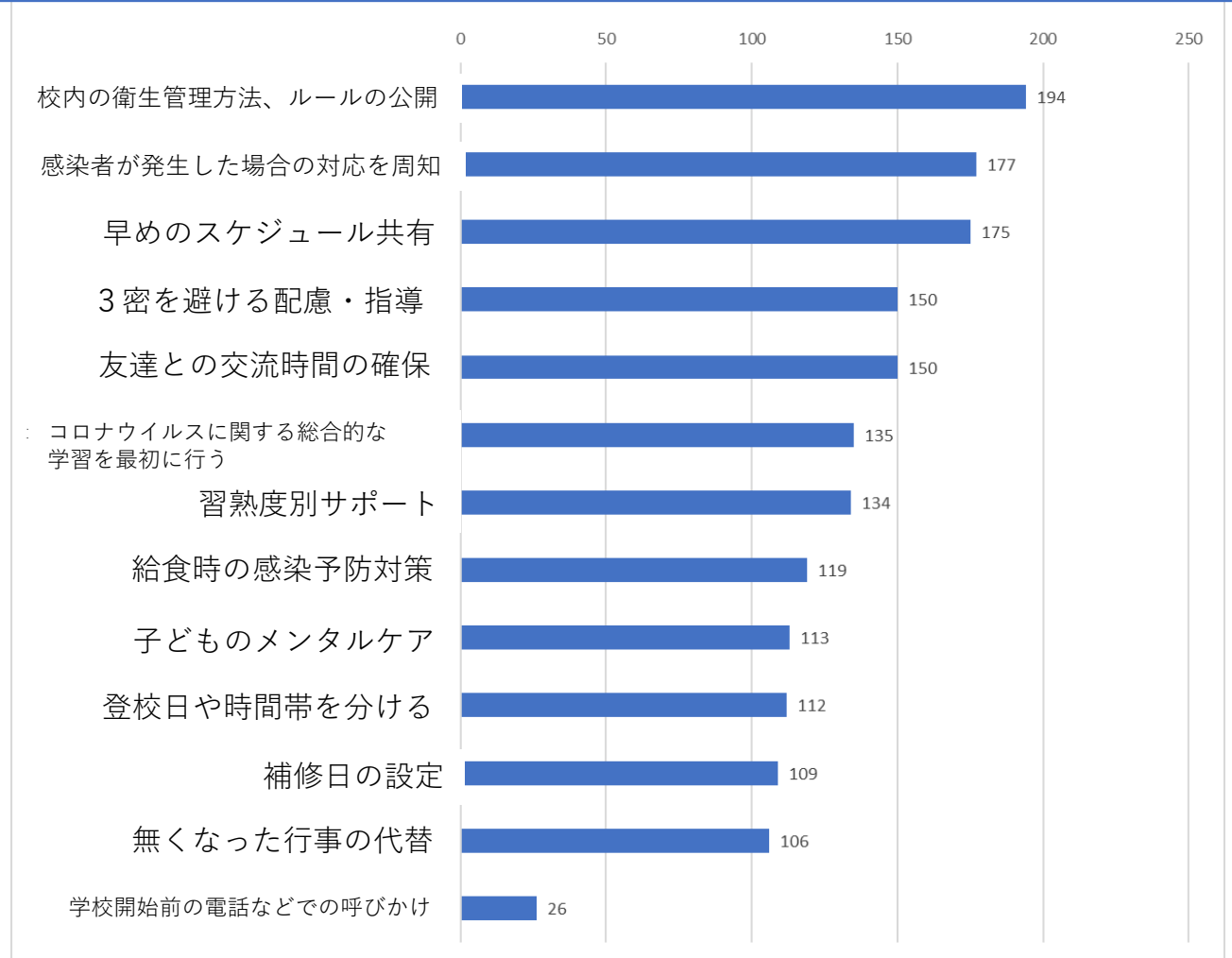


アンケートから見たこと④

学校再開時の配慮

- ①「校内の衛生管理方法、ルール of 公開」
「感染者が発生した場合の対応の周知」
- ②行事や長期休暇の有無に関して
「早めのスケジュール共有」を求める声
- ③中学生は、「習熟度別サポート」「補習日の設定」
など学習面の配慮を求める声が多い。

学校再開に際し、配慮があるとありがたいことは何ですか？



アンケートから見たこと⑤

自由意見より

- ・新型コロナウイルス対策は、**学校と家庭の共通認識**をつくり、子どもにも対策、指導を徹底
- ・学習や進度の遅れ、受験や進路選択に関する不安
- ・**詰め込み教育**によるメンタル面その他のケアがおろそかになること
- ・部活動、総合学習、行事の削減、人としての成長に関する機会
- ・休校中の**学校とのコミュニケーション** 相談や連絡手段の体制構築
- ・学校の先生方を配慮し、**学校と家庭が連携して進めたいという前向きな意見**が多数
- ・オンライン活用（双方向授業や動画配信、朝会やホームルームのみでも!）を求める声
- ・**経済面**の不安、「親の疲れも限界」など**親の疲弊**

教育委員会・市議会との対話

5/21 富士市教育委員会 面談

学校教育課 教育指導室 齋藤室長、加藤統括主幹

- ・感染対策についての案内、感染者が出た場合のガイドライン
 - ・早めのスケジュール共有
 - ・オンライン授業
- ⇒GIGAスクール構想に基づいて、児童生徒1人1台のタブレット配置に向けて取り組み中
- ・学校とのコミュニケーション

5/29 富士市議会 面談⇒全議員への資料配布へ

一条議長、笠井副議長

- ・感染者発生時の対応
 - ・学習への不安と主要科目以外の「学び」の必要性
 - ・オンライン授業
- ⇒富士市は7億円弱の予算をつけている。前倒して進めていく予定
- ・困っている子どもや家庭を救う取り組み

市議会定例議会でアンケート結果を元にした一般質問

(子どものメンタルケア、オンライン教育について)



アンケートから見たこと⑤

自由意見より

- ・新型コロナウイルス対策は、学校と家庭の共通認識をつくり、子どもにも対策、指導を徹底
- ・学習や進度の遅れ、受験や進路選択に関する不安
- ・詰め込み教育によるメンタル面その他のケアがおろそかになること
- ・部活動、総合学習、行事の削減、人としての成長に関する機会
- ・休校中の学校とのコミュニケーション 相談や連絡手段の体制構築
- ・学校の先生方を配慮し、学校と家庭が連携して進めたいという前向きな意見が多数
- ・オンライン活用（双方向授業や動画配信、朝会やホームルームのみでも!）を求める声
- ・経済面の不安、「親の疲れも限界」など親の疲弊

アンケートからの気づき

市民の声がくらしを変える

- ・1人1人の声が、大きなチカラに
- ・市民の声を聞いてくれるマチ
- ・いっぽ いっぽ の積み重ね

我が家の場合・・・

良かった点

- ・近くの海や森で自然を感じられた
- ・おうちで料理やアートを楽しんだ
- ・子どものオンライン活動にもチャレンジ!
- ・家族の絆が深まった

反省点

- ・仕事をすることに必死で心の余裕なし
- ・下の子のメディアの付き合い方
- ・子どもを強く叱りすぎてしまった



今、私が考えていること

- ・教育における「平等」と「配慮」
- ・学校と保護者、地域のかかわり方 ⇒ 「みんなで育てる」
- ・変わりゆく「教育環境」 ⇒ 親子で考え、社会に対して小さな声をあげ続ける
学校や行政とのコミュニケーション

ご清聴、ありがとうございました。

ふじママサロン

Web:<https://rkmcss.wixsite.com/fujimamasalon>

E-mail:fujimama.salon@gmail.com

